

「新研究」学習と「活用」の問題演習で、入試の変化に対応

大分県では、数年前から、県立高校の入試問題で、いわゆる「活用」の力を問う問題が出題されている。県内の先生方が、そういった入試の傾向に対して、どのような対策を取られているのか、大分市内のいくつかの中学校で、お話を聞きました。

入試対策の土台作りは朝学習と宿題で

取材先のすべての学校で共通して聞かれたのが、「活用するには、基礎がしっかり定着していないといけない」ということ。大分市内では、入試のための基礎作りとして、「新研究」と、シート教材である「サポート」(または「中学セミナー」)が採用されている。

2年生の3学期からの進学教材学習



家庭で「新研究」学習

朝学習の時間にシート学習



担任の先生に「新研究」とシートを提出 →先生が検印後に返却



活用の前段階として、個々の生徒の苦手とする教科の基礎力強化に向けて、「新研究」A問題をしっかりと解くよう指示しています。A問題はすこよくできていて、低位の子にとって最低限必要な基礎の基礎が出題されているので、そこだけでも繰り返し取り組ませるようになっています。



「新研究」学習は曜日固定で、朝学習の「サポート」は、朝会のない日に実施しています。毎月予定表を配布して、それに従って学習させるのですが、どうしても「サポート」が遅れがちになるので、「新研究」は特集なども予定に組み込んで、なるべく「新研究」と「サポート」の単元が大きくずれないようにしています。



「毎日ノート」という自主勉強用のノート学習をさせています。半分はその日に予定された「新研究」学習をさせて、残り半分は各自で決めた自主勉強をさせます。週末は、課題を2教科分ずつ出しています。週末課題は、授業でやったところから出します。

「新研究」も「サポート」も毎回回収しています。「新研究」は担任、「サポート」は副担任がチェックして返しています。「新研究」については、気付いたことを本誌に書き込むように指示しており、それをチェックし、必要に応じて指導しています。

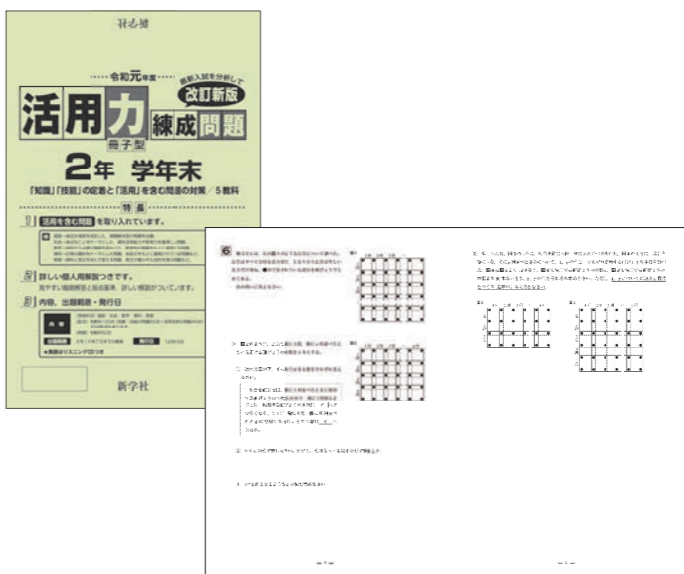


進学教材の学習状況は成績には入ませんが、まじめに取り組んでいる生徒はテストの結果もよくなるので、自然と反映されている形になります。

実力テストで学力の診断と振り返り

大分市内では、多くの学校で、3年生になると年間7回程度の実力テストが行われる。テストの実施後、テスト返却の際に、テストで正解できなかった問題について、「新研究」のどのページのどの部分を振り返ればよいか、先生から生徒に具体的に伝えることで、生徒の振り返り学習を促している。

今年度は、「活用問題」への意識付けと、進学教材学習へのスイッチを入れるため、2年生の学年末で「活用力練成問題(活用の問題を含む実力テスト)」を実施しました。生徒が自分の学力に対して危機感を持つきっかけとなり、入試に向けた学習の意欲付けにつながったと思います。



3年生3学期は仕上げ教材で「活用」の力をつける

大分市内では、2年生3学期からの「新研究」学習については、3年生の夏休みまでに1・2年範囲を2回以上繰り返し学習させる学校が多い。そして、3年生の12月ごろまでに、授業・「新研究」ともに単元学習を終えて、授業時間を使って「ベスト」シリーズなどの仕上げ教材や公立入試の過去問題などを使った実戦問題演習を行っている。



このときに、「活用」を問う問題については、大分県の過去の入試問題だけではなく、他県の入試なども含めて、意識的に数多く解かせるようにしているとのことであった。

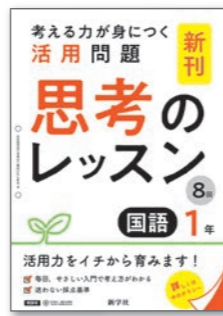
生徒が仕上げ教材に取り組んでいる間、机間指導を行います。机間指導のときに質問が多かった内容や、間違いやすい内容について、授業時間の最後の5分程度を使って全体解説を行っています。



新刊

考える力が身につく活用問題

思考のレッスン



「活用問題」に段階を踏んで取り組むことができるバラプリント教材です！

（国語・社会・数学・理科・英語）
1・2年 各8回※
※社会1年のみ9回

表面(入門)は、活用問題の考え方・技能がわかる問題構成！

裏面(練習)は、表面でつかんだ考え方・技能を使って実戦的な活用問題が解ける！

特長① 表：考え方のキホン→裏：実戦的な練習問題で、活用力が身につく！

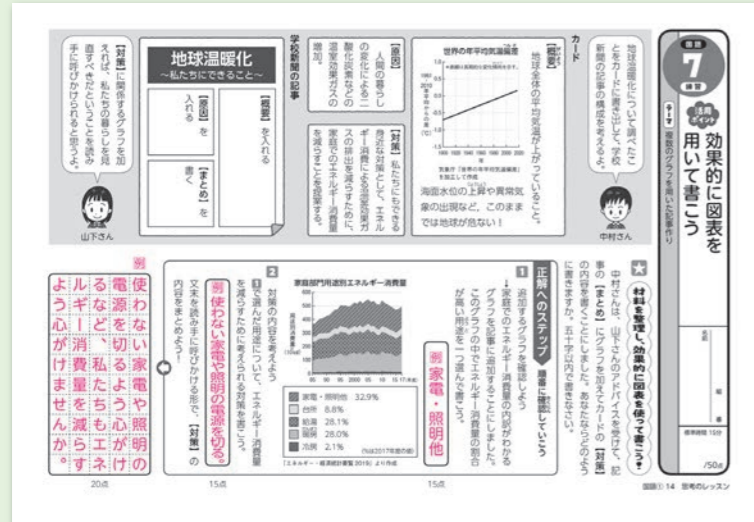
「活用ポイント」で身につく「活用力」が一目瞭然！

【問題表面】活用問題の考え方の道筋がわかる表面！



▲国語1年第7回 問題(表面)

【問題裏面】表面でつかんだことを活かせる裏面！



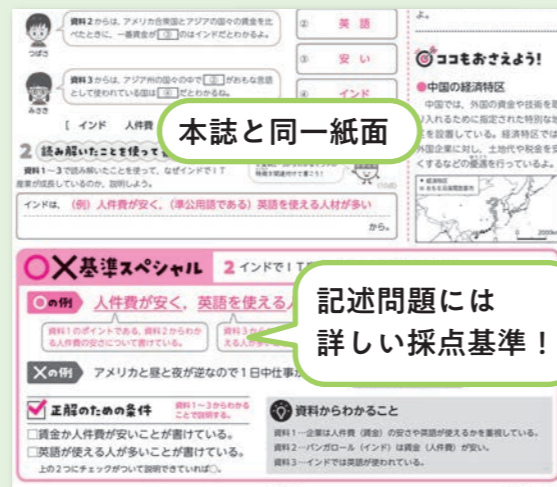
▲国語1年第7回 問題(裏面)

活用ポイント例

国語	・情報の扱い方を身につけよう ・根拠を明確にして書こう
社会	・自然環境は農業にどのように関係するのか説明しよう
数学	・文字式を使って計算のしくみを説明しよう
理科	・緊急地震速報のしくみをもとに、避難方法を考えよう
英語	・必要な情報を読み取る ・話の流れをつかむ

など

特長② 答え合わせしやすい手引き！



▲社会1年第2回 手引き(表面)

※表紙、紙面デザインは製作中のものなので、変更の可能性があります。

思考力・判断力・表現力は1年生から少しずつ

活用問題を解くための思考力・判断力・表現力は、短期間では身に付きにくい。そのため、調査で聞ききた学校では、1年生の段階から徐々に、思考力・判断力・表現力が身に付くような取り組み・工夫を行っているところが多かった。

朝自習の時間に、1・2年は、活用問題を含んだ先生自作のプリント学習を実施しています。実施時間は25分程度で、国語では、図や表の読み取りなどを入れています。2年生3学期からは進学のシート教材に移行させます。

思考力・判断力・表現力育成のため、全教科の授業で学び合いの活動も取り入れています。学び合いのテーマ設定については、特に1年生では、「地球環境」などのような、生徒の実社会から遠い世界の話題よりも、「学校生活の中にある身近な話題をテーマにするほうが、生徒の意欲を高めやすいと感じます。大分県に関連付けた話題なども有効かと思えます。



1年国語
ご担当先生



読解力と表現力を総合的に育成

「活用」の力を問う問題では、いずれの教科でも、資料や問題文、題材文を読み取ることができただけでは不十分で、そこから考えて、さらに表現するに至るまでの総合力が求められる。教科書にない資料や文章などに触れ、読み取る機会を増やしながらか、こまめに表現させることを積み重ねる工夫が必要となる。

国語では近年、新聞記事(実際の新聞や架空の校内新聞の記事など)を使った問題が入試によく出されています。授業の中で、同様の資料を提示して、読み取る練習をさせることもあります。また、グラフなどの統計資料を用意して読み取らせることもあります。

3年国語
ご担当先生



活用に至るまでの基礎力の育成として、3年生1学期から授業中の5分間の帯学習を実施しています。100問英単語や基本文法など、毎回3分間として、英問英答で英文文を作らせています。ある程度たまったら、回収してALTが添削して返却。さらにたまったら、長文に仕上げ提出させ、ALTが添削して返しています。

3年英語
ご担当先生



定期テストで活用の問題を出題

活用力を育成するため、前述のように授業内で意識的に活用力を育てる取り組みをするだけでなく、定期テストでも活用の問題を出題する学校も多い。

活用力育成として、全学年で定期テストに2割の活用問題を入れていきます。出題した活用問題は冊子にまとめて、次年度の先生に引き継ぎ、学校内での取り組みの継続に努めています。

「新研究」の同一問題をテストに出題しています。後ろのほうにある活用問題をテストに出すこともあります。

3年
ご担当先生



1年
ご担当先生



「活用」の力を育成するために

調査の中で、実践校の先生方が今後の課題と感じられていることとして主に2点聞かれた。一つは、「活用」の問題のネタ・テーマ・資料探しの大変さである。生徒にとって身近で、なおかつ学んだ内容を適切に「活用」できるような設定での問題作成には多くの時間を取られるとのことであった。そして、二つめは、苦手な生徒に対し、どのように指導していくかである。ある学校では、普段の授業から学び合いの時間を積極的に取り入れることで、生徒同士の教え合いが行われやすい土壌づくりをしているところである。引き続き、これから求められる学力の育成に向けた取り組みについて、情報収集を続けたい。